陸災防神奈川県支部
労災情報(R4.7)

神奈川県内の陸運業の労災

令和４年６月末の速報値

労災事故が増加しています。

☆死傷災害は４５名(１３.４%)増加し３８０名となっています。

神奈川労働局の集計によると、令和４年６月末(1月１日から６月 30 日)における県内の陸運業の労働災害発生は令和３年同期と比較し次のとおりとなっています。

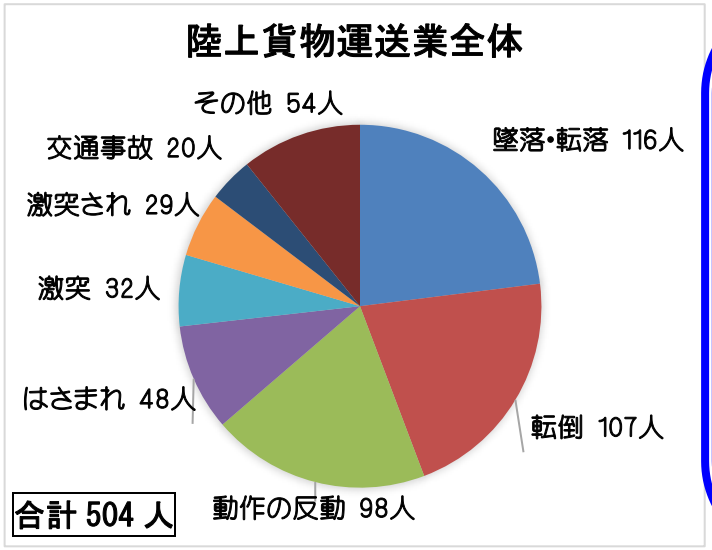
用語の説明は支部ホームページ参照！

- ✧ 死傷災害は　道路貨物運送業では４５名(＋１３．４%)増加しており、陸上貨物取扱業では 20 名(－13．９%)減少となっています。
- ✧ 死亡災害は　陸上貨物取扱業で２件発生しています。

死傷災害とは、死亡災害と４日以上の休業災害を合計したものです。

１．概　況（神奈川県内）道路貨物運送業・・・(事故の型ワースト６＋交通事故)

事故の型	墜落・転落	転倒	動作の反動(腰痛等)	はさまれ・巻き込まれ	激　突	交通事故	激突され	その他	合　計
発生件数	１０４	８０	７１	３０	２０	１８	１４	４３	３８０
対前年増減	－１３	＋２７	＋１０	＋９	－３	＋３	－４	＋１６	＋４５
同上増減率	-11.1%	+50.9%	+16.4%	+42.9%	-13.0%	+20.0%	-22.2%	+59.3%	+13.4%



陸上貨物運送業全体の発生状況

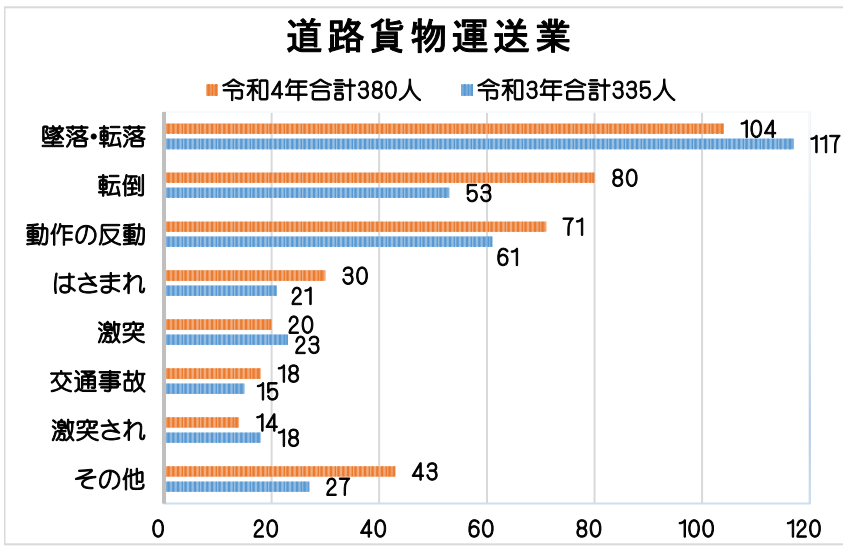
◎死亡災害
陸上貨物取扱業で２件発生。

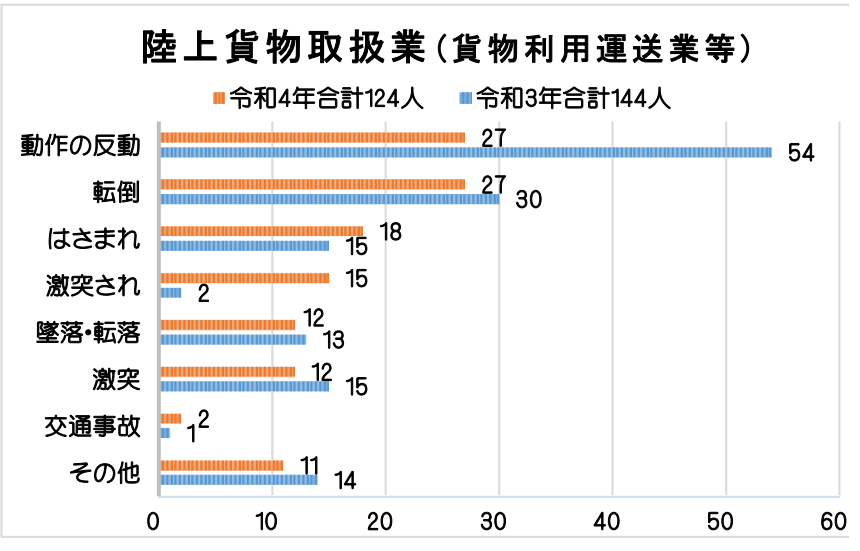
基本操作・行動の励行を！

◎死傷災害
①墜落・転落災害が１０.８%減少し１１６名となった。
②転倒災害は２８.９%増加し１０７名となった。
特に、道路貨物運送業で５０.９%の大幅な増加となっている。
③腰痛等の動作の反動が１４.８%減少し、９８名となった。

荷役作業を中心にあらゆる対策を講じて労災事故を撲滅しましょう

2. 各業種の概要





☆１　昨年同期に比べ+13.4%(+45 名)増加して 380 名となっている。
☆２　墜落・転落が 104 名と相変わらず多く発生している。
☆３　転倒災害が+50.9%(+27 名)と大幅に増加している。

※１　昨年同期に比べ-13.9%(-20 名)減少して 124 名となった。
※２　腰痛等の動作の反動が-50.0%(-27 名)と大幅に減少している。
※３　転倒災害が 27 名と多く発生している。

３．死亡災害発生概要（陸上貨物運送事業関係）

陸災防神奈川県支部収集

番号	発生地	月 時　刻	事業の種別 労働者数 職　種	起因物 事故の型	発　生　概　要
1	横浜市	4 月 13 時頃	陸上貨物取扱業 ～9 名 作業員	荷姿の物 崩壊、倒壊	60 歳代前半の作業員がﾌｫｰｸﾘﾌﾄを運転して倉庫から出庫作業中、出庫対象の隣のはい積み(1 ﾄﾝﾌﾚｺﾝﾊﾞｯｸﾞの 4 段重ね、高さ約 4 ﾒｰﾄﾙ)がもたれかかり運び出せない箇所を確認しようと下車した時、当該もたれていた 3・4 段目が崩れ落ち、下敷きとなり死亡した。
2	海老名市	6 月 6 時頃	陸上貨物取扱業 50～99 名 作業員	ﾌｫｰｸﾘﾌﾄ 墜落、転落	50 歳代後半の構内作業員が物流施設内でリーチフォークリフトに乗り、バースに荷揃え中、荷を積載して後進時に高さ 1 メートルのプラットホームから同車ごと落ち、同車ヘッドガードと床との間にはさまれ死亡した。

平成２７年は死亡災害は発生していません。このまま死亡災害ゼロを継続しましょう。